



祭りの思い出



皆さんは、お祭りがお好きですか？福岡はお祭りの多い街ですよね。ゴールデンウィークには博多どんたく、夏には博多祇園山笠、そして秋には放生会。今回はORTICメンバーが“お祭りの思い出”について語ります。地域性があったり、歴史があったり…やっぱり、お祭りはずっと守っていききたいですね。

息子を連れて放生会に行った時のこと。おもちゃのサメを竿で釣って、サメの中に隠された紙に書かれた景品がもらえるというクジ遊びをしたのですが、景品が鉄砲だったんです。息子はすごく喜んで、その後一日中バンバン撃ちまくって遊んでいましたが、扱いが雑だったのか、夜には鉄砲が壊れてしまいました。しょんぼりする息子を見ながら「パッと楽しんで、パッと終わるところが、祭りだなあ」と思ったのを覚えています。



今年の夏は暑かったので、庭に子供用プールを置いて、水遊びに精を出しました。それから隣の公園でセミをたくさん捕まえました。捕まえたら、すぐ逃がしてあげましたよ。おかげで子どもたちとふれあえた夏でした。



重富幸治郎

福岡育ちの私が思い出すのは、幼い頃、親に連れていってもらった放生会です。出店でプラスチックのままごとセットを買ってもらうのが、いちばんの楽しみでした。自分が親になってからも、子どもたちを連れて放生会に行き、娘にままごとセットを買ってあげたのを覚えています。ただ…私のままごとセットには重箱が入っていましたが、娘のにはフォークとナイフと目玉焼が入っていました。時の流れを感じましたねえ(苦笑)。



初めてのフラダンスの発表会。先生に「ショートカットの人はオールバックにして。全員、宝塚風のメイクをしてくるように」と言われ、言いつけどおり、オールバックに濃いめのアイシャドーと真っ赤な口紅をして臨んだのですが…言いつけどおりでない方も多く…皆さん、とてもお洒落でした。私は先生に褒めていただきましたが、記念写真を見ると、まるで松露饅頭(涙)。



実松千恵子

韓国語の先生に習ったしそジュースと、社長に教えてもらったぬか漬けにトライしてみました。ぬか漬けはヨーグルトを入れると元気になります。しそジュースは時期が過ぎてしまい、一度しか作れませんでした。美味しかったです！昔の人の知恵のすごさに驚き、作る楽しみと完成した時の喜びを味わいました。



沖知美



月刊 つばさ



2011年9月号

あなたと、あなたのお店を訪れるお客様の健康のために、お役に立てたら幸せです。

顔の見えないお客様との絆

暦の上ではもう秋。皆様、お変わりありませんか？疲れの出やすいこの時期、休息と栄養を十分に摂って、ひと夏頑張った自分をいたわってあげてください。

日本は今、試練の時だと思います。震災からの復興、風評被害、円高…多



くの方がそれぞれの環境で試練に立ち向かっています。私たちは自分たちが開発した商品を、どんなお客様が、どんな環境で使ってくださるのか、詳しく知ることはできません。けれど、顔の見えないお客様の存在を頭に思い浮かべて、その方々のお役に立てるよう商品を創り続け、発信していこうと、改めて思っています。

ORTICには毎月たくさんのお客様からの声が届きます。ご意見ご要望にはできるかぎりお応えしようと努力しています。サプリの徳用サイズも「容器のムダをなくすよう」というお客様のご意見から生まれました。中には難しい問題もあり、「飲みたい商品は何種類もあるが、もっと安くならないか」というご指摘になかなかお応えできずにいます。しかし、商品設計のたびにお客様からの声をもとに手頃な価格を目指しています。本当に怖いのは、黙って去っていかれるお客様。ご批判であっても、はっきり言っていただけの方を大切に、お客様との絆を感じられる会社であり続けたいと思っています。

株式会社ORTIC
代表取締役

印藤 晴子



ORTICでは、OEM(受託製造)を承っています。このコーナーでは新商品開発に役立つ情報をお伝えしていきます。今回は「体感の重要性」について。健康食品に最も必要な条件は“体感＝効果ははっきりと体で感じられること”。ORTICとそのグループ会社では、スタッフ全員が体質に合わせて自社のサプリを飲んでます。自らが体感してこそ、お客様に自信をもってお薦めできるのです。サプリを愛飲しているスタッフたちによる体験談をご紹介します。

自分が体感しないものは売らない。

『還元型CoQ10』を発売して4年。きっかけは弊社学術顧問の栗原毅先生と原料メーカーであるカネカ社が行なった共同研究で、還元型CoQ10に素晴らしい結果が出たと聞き、商品開発に乗り出しました。「自分が体感しないものは売らない」という弊社の基本どおり、まず試作品をつくり、自らモニターになりました。

1日100～200ミリグラム、多い時は400～500ミリグラムを飲み始めて約1週間が過ぎた頃、両眼の下にあった肝斑が薄くなっていました。その後少しずつ薄くなり、約1カ月で完全に消えてしまいました。この体験が、きっとお客様に喜んでい

ただけるという自信になりました。よくお客様や取引先の方に「何を飲まれていますか？」と聞かれますが、私はまず、血流のために梅肉黒酢、抗酸化と若さのために還元型CoQ10、そして有機青汁。この3種を基本にし、目のためにアサイーを飲んでます。

最近、次の新商品のモニターとして、寝る前に飲んでるものがあります。約2週間になりますが、目の下のシワとほうれい線が薄くなったような気がします。今はこれ以上お話できませんが、いざれご紹介できたら…と思います。

(印藤)

血圧が高くなりかけた時に、「梅肉黒酢」を毎晩3粒飲むようにしました。結果、血圧はすぐに正常値に戻り、朝の目覚めもよくなりました。疲れも一緒にとれるのか、体が軽くなるような気がします。やはり、基本となる血液がサラサラになってこそ、元気な体が造られるのですね。

(石原)



40歳を過ぎた頃から急に目の疲れがひどくなり、老眼も進みました。目を開けるのも億劫になるくらい、目にストレスを感じていました。それが「アサイーベリークリア」と「アサイーベリーファイブスター」を各2粒ずつ飲み始めて1カ月ほどで、今までの眼精疲労が嘘のように消え、瞳がスッキリとなったのです。今や私には欠かせないので、ぜひ試してみてください。

(土斐崎)



Q 10アグシを愛飲してます。即効性があるので、疲れた日には効果てき面！続けて飲んでると若さも保てるのだとか。私の友人は「Q10アグシ」を飲んで、白髪の進行が止まったそうです。白→白黒→黒と髪の色が変化していったと喜んでいました。私もずっと飲み続けていこうと思っています。

(坂井)



それ、ウソです

丸山寛之

第46回

「管」違い

同じような症状の病気に^{せきちゆうかんきょうさくしやう}脊柱間狭窄症があります。(「どうしました」=朝日新聞2002年2月17日)

「200歩も歩くと足がしびれて痛み、動けない。脚の血管が詰まっていると言われ、血管を広げる手術を勧められました」という73歳の男性の相談に対する、専門医の「答」の一部である。

重箱の隅を楊枝でほじくるような指摘だが、「脊柱間狭窄症」の「間」は「管」の誤植である。正しくは「脊柱管狭窄症」だ。

印刷物に誤植(校正のミス)はつきものなので、昔の編集者はよく、「朝日新聞や岩波文庫にだって誤植はある」と言った。いわば朝日新聞や岩波文庫の校正者に対する、逆説的な評価である。その朝日の誤植、珍しいな、と思い、記事を切り抜いておいた。

脊柱管狭窄症は、先年、みのもんたさんの入院手術でいっぺんに有名になった。

脊柱管とは、脊柱(背骨)の後ろのほうを上から下へ通っている、手の親指ぐらいの太さの管だ。その中に脊髄(脳と体の各部を連絡する神経組織)が入っている。

脊柱管がいろいろな原因(多くは加齢)で狭くなって、神経根(脊髄から枝分かれする神経の根元)や神経周囲の血管を圧迫するために起こる病気が、脊柱管狭窄症である。

歩いていると、腰がだんだん痛くなり、脚がしびれて、もつれる。立ち止まって、しゃがんだり、腰かけたりして、腰を丸くして休むと、楽になる。が、腰を上げて歩き始めると、また同じ症状が出て歩けなくなる。

この間欠性跛行と呼ばれる歩行障害が、脊柱管狭窄症のいちばんの症状だ。

これとほとんど同じような症状が出る病気が、ほかにもいくつかある。

なかで最も代表的な一つが、「閉塞性動脈硬化症(ASO)」で、「脚の血管が詰まっている」と言われた73歳男性の病気は、これだ。動脈硬化が進んで、血栓な

丸山寛之 プロフィール

医療ジャーナリスト。NPO法人日本医学ジャーナリスト協会会員。1932年、鹿児島生まれ。新聞記者、医学雑誌編集者を経て医療ライター。1960年代初めから面接取材した医師・医学者は優に1000名を超える。著書＝「がんはいい病気」(マキノ出版)「読むサプリ」(明拓出版)「この酔狂な医者たち」(草思社)「ビジネスマン元気術」(日本マンパワー出版)など。雑誌「壮快」に「名医が聞く」連載中。Webサイトに「健康1日1話」<http://www.maru-san.info/> を開設。毎日更新している。



どて血管が塞がり、血流が妨げられる病気で、足の動脈でよく起こる。

足の筋肉や神経が緊張し、歩いていると、足の裏やふくらはぎ、太もも、お尻などに痛みが生じ、歩き続けることができない。しばらく休むと回復し、歩き始めるとまた痛くなる。この間欠性跛行の症状は、脊柱管狭窄症と全く同じだ。

違うのは、姿勢性要素で、脊柱管狭窄症は、前かがみになると脊柱管が広がるので楽になるし、歩行器を使って前傾姿勢になれば、かなり長く歩ける。自転車も大丈夫だ。

しかし、ASOは、血管が詰まっているのだから、姿勢とは関係ない。歩行器や自転車でも、痛くなる。

一方、同じ足の血管でも、動脈ではなく、静脈が詰まる「深部静脈血栓症」では、歩いているときはなんでもなく、立ち止まると痛くなる。

ASOと同じように、動脈が慢性的に詰まってくる病気に「閉塞性血栓性血管炎」(別名バージャー病)がある。日本でも脱疽とか壊疽とか呼ばれ、江戸時代から知られていた。

主に若い男性の手足の血管が詰まって、強い痛みが起こり、潰瘍ができ、壊死する難病だが、1970年代から急速に減ってきた。

逆に、ASOは非常に増えている。

脊柱管狭窄症で死ぬようなことはないが、ASOが進行し、壊疽になると、患部を切断しなければならず、死に至る例も少なくない。

ASOの人は必ず糖尿病、高血圧、脂質異常症、喫煙といった危険因子を持っている。

壊疽を防ぐには、一にも二にも早期発見・早期治療だ。足が冷たい、しびれる……というようなときは、すぐさま血管外科へ。

